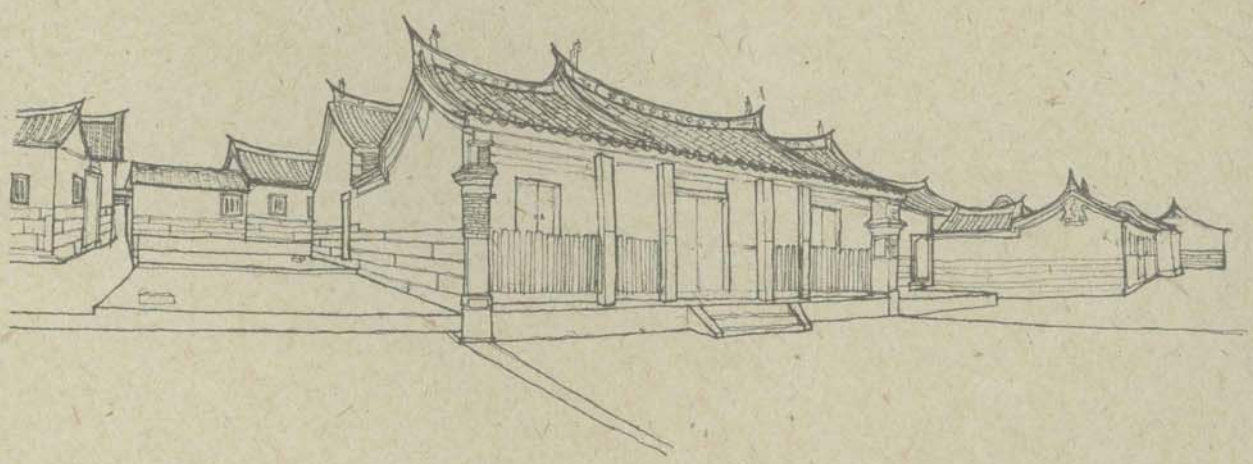
金門国立公園



目　次

序 ―― 3
国立公園設立の沿革 ―― 6
歴史的背景 ―― 7
地理的位置と面積 ―― 8
地質と地形景観 ―― 10
植物の生態系と景観 ―― 16
動物の生態系と景観 ―― 22
人文的史跡 ―― 30
戦役関連の史跡 ―― 42

序

金門は、中国大陸福建の廈門（アモイ）湾沖に位置し、内陸とはわずかに海を隔てているのみです。そういう地理的な便から、早くも晋の時代には中原から戦禍を逃れてきた先人の蓬莱の島となり、人文の盛んな地として発達しましたので、多くの文化史跡と伝統的集落が残されております。また、戦争史の上では、海の守りの重鎮としての地位は突出し、明末、鄭成功はこの地を「清に抵抗して明の復興を図る」基地にしました。そして、1949年以降、さらに、古寧頭の戦役、「九三砲戦」「八二三砲戦」など、台湾海峡安全保障のための数々の戦役によって、多くの戦役記念地が残されました。

金門は面積の小さい島であるために、生態系環境はダメージを受けやすく、そのために、バランスを失う結果となります。明朝、清朝時代を通じて戦火が絶えなかったため、もともと樹木がうっそうとしていた金門はついに焦土の島になってしまいましたが、1949年以降、島に駐屯する軍隊と住民が協力して造林に励んで来ましたので、再び緑があふれるようになりました。この脆弱な生態資源を、随時細心の注意を払って保護し、この先どのようにして経営し利用すべきかを考えていかなければ、金門は直ちに風で砂が空一面に巻き上がる光景に戻りましょう。そして、貴重な人文史跡や戦役の記念地も流れ去る歳月とともに消えてなくなり、われわれの子孫は歴史の根源を探すよすがをなくし、人々は戦争の残酷な教訓と平和の尊さを忘れてしまうでしょう。こういうことを未然に防ぐために、金門国立公園設立の構想が生まれ、二年にわたる調査、研究、企画を経て、金門国立公園管理処が1995年10月18日に正式に設立されました。

「金門国立公園」は、ツーリストや住民の皆様に、金門国立公園の資源特色、国立公園の理念について、ご理解いただくために編纂されました。これを通して、金門国立公園の自然生態系、人文史跡、戦役記念などの資源特色が理解され、さらに一歩進んで、われわれの生活するこの土地が大事にされることを祈念します。

金門国立公園管理処前処長

李養盛

慈堤海岸　マツヨイバナと砂浜に見られる軍事的防御施設は金門海岸地区の一大特色です。

国立公園設立の沿革

国立公園とは、国を代表する天然資源や人文的資産を、国が区域を決めて直接経営し管理する地域をいいます。国立公園設立の主な目的は、その国特有の自然風景や野生の動植物、史跡を保護して、科学の研究、教育、レクリエーション、知的啓発などの資産とすることです。1872年、アメリカはワイオミン州イエローストンの美しい天然を保護すべく、世界はじめての国立公園――イエローストン国立公園を設立しました。今では、全世界百あまりの国や地域で千近い国立公園が設立されています。

わが国は1972年に、「国立公園法」を可決、わが国自然生態系資源保護の法的根拠としました。そして、 1984年に、わが国はじめての国立公園――墾丁（コンテイ）国立公園を設立、それ以来、ここ十数年の間に、玉山、陽明山、太魯閣（タロコ）、雪霸などの五つの国立公園を次々と設立しましたが、これら五つの国立公園が、すべて生態系や自然景観保護を主な目的としているのに対して、1995年10月18日設立の第六個目の国立公園――金門国立公園は、はじめて歴史文化資産の保護、戦役の記念などを主な目的に、自然資源保全をかねた国立公園です。

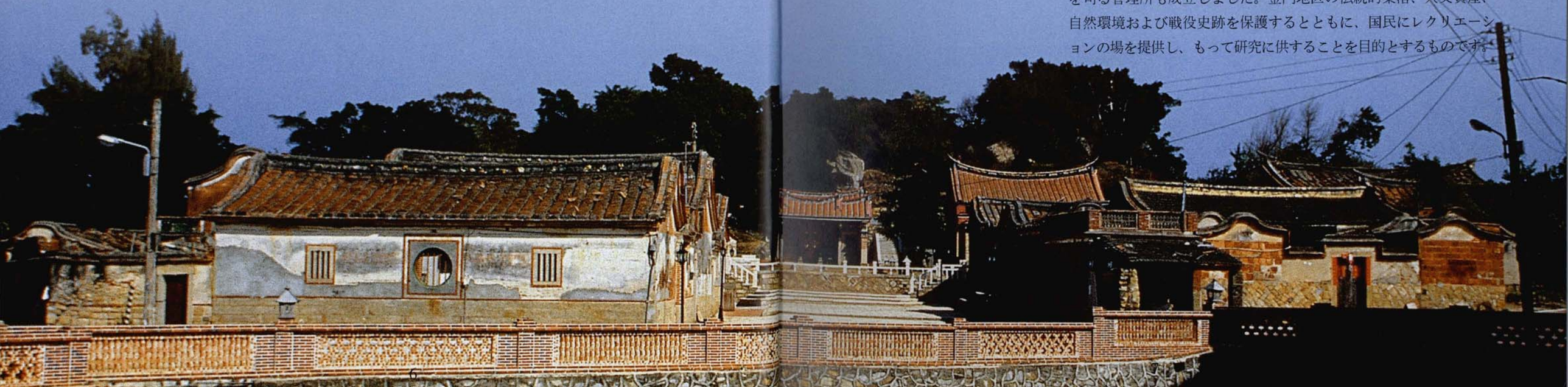
歴史的背景

金門は昔、「浯洲」「仙洲」と呼ばれていましたが、1387年（明洪武20年）、江夏侯周徳興が城を築き、「金城湯池のように堅固で、海門の守りを担う」として「金門城」と命名したことから、「金門」という地名が定着しました。

金門で発見された早期の人類活動の遺跡としては、五、六千年前の復国墩、貝塚遺跡がありますが、史上の文字的記載では、今から千六百余年ほど前の東晋時代まで、遡ることができます。ちょうど匈奴、鮮卑などの異民族が中原に侵入してきた乱世の時代で、多くの人が戦禍を逃れて南下し、この地にたどりついて住みついたとあります。そして、唐の時代には、陳淵という人が馬の放牧や開墾に力を尽くし、人口も徐々に増えていき、宋代には、正式に中国の版図に加えられました。南宋の儒学者朱熹もここに燕南書院を設立して、儒教の教えを宣揚したと伝えられております。元の時代になりますと、塩田が作られ、明では、海賊対策として城が建てられ、金門は海の守りの重鎮となっていきました。

明末の永暦年間、鄭成功は監国魯王を迎えて、金門、アモイ両島に進駐し、ここを「清に抵抗し明を回復」する基地にしました。清朝では、独立した水軍を金門において、海の防衛に備えました。1949年以降、金門は反共の最前線として戦地政務の任に当たり、1992年11月8日動員勘乱時期の終結の日まで続きました。

1995年10月18日、金門国立公園が正式に設立され、経営、管理を司る管理所も成立しました。金門地区の伝統的集落、人文資産、自然環境および戦役史跡を保護するとともに、国民にレクリエーションの場を提供し、もって研究に供することを目的とするものです。

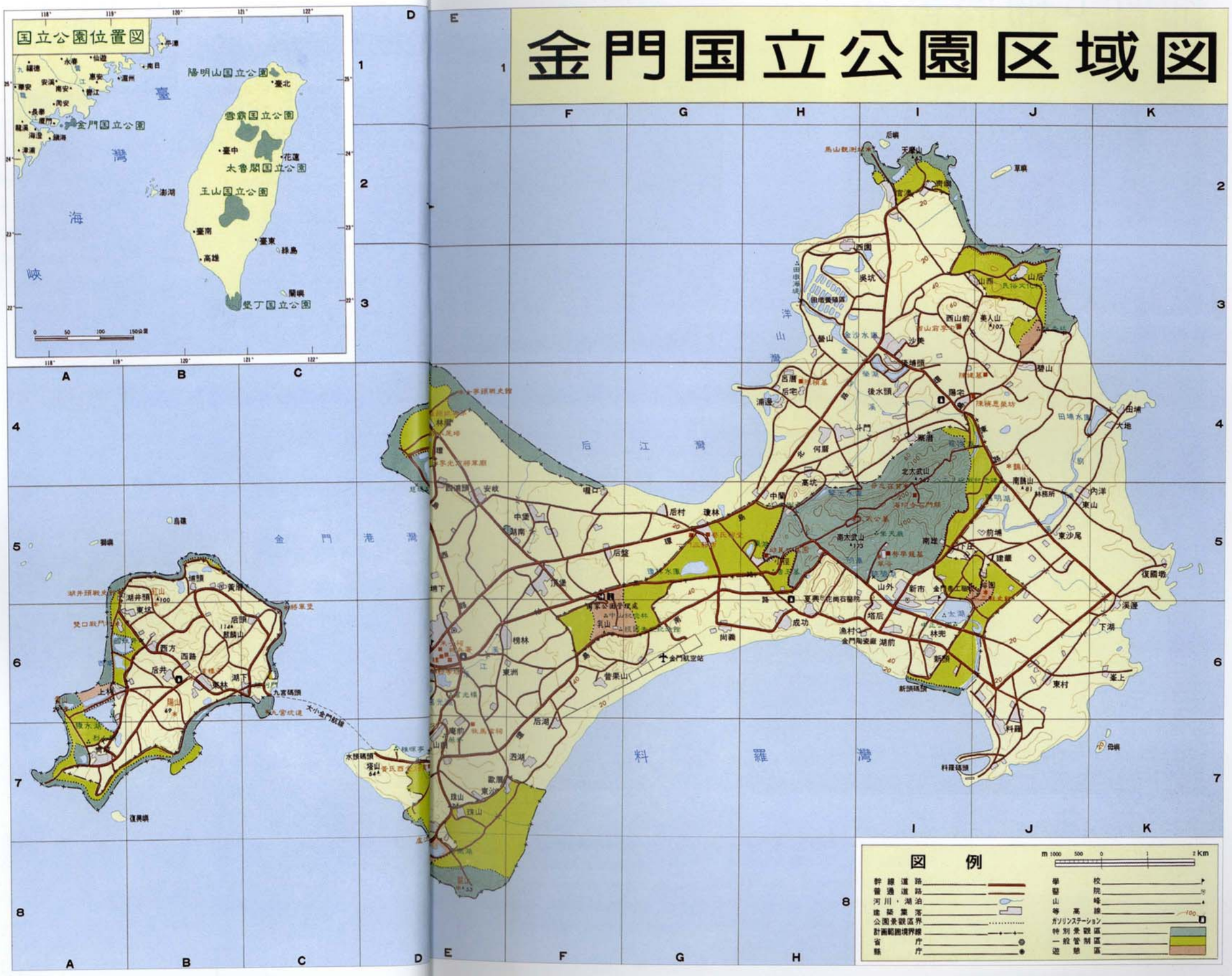


地理的位置と面積

金門は、中国大陸福建省東南部、九竜江河口の廈門（アモイ）湾沖に位置し、金門本島の面積は13425ヘクタールあります。西はアモイ外港まで約10キロメートル、東は台湾まで約227キロメートル、緯度は台湾本島の台中地区とほぼ同じです。

金門国立公園の範囲は、金門本島の中央とその西北部、西南部および東北部等の局部的地域、烈嶼の環状道路とその外囲区域をカバーし、太武山区、古寧頭区、古崗区、馬山区、烈嶼区などの五つの区に分かれており、総面積は、3,780ヘクタール、金門総面積の約四分の一を占めています。

環境保全、レクリエーション、研究の目標を達成するため、本区域は現行の土地利用形態や資源特性に基づいて、国立公園法第十二条の規定により、特別景観区、史跡保存区、遊楽区、一般管制区に分けて管理し、それぞれ保護利用計画を制定して、域内の特色が長く保存できるようにしています。



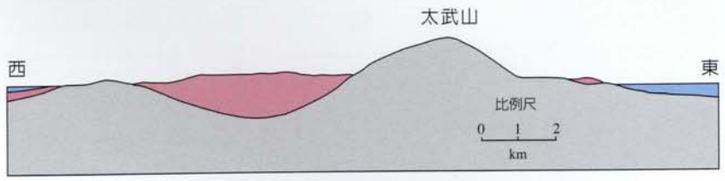
地質と地形景観

金門国立公園所在地の大小金門島は、すべて花崗片麻岩によって構成されています。太武山地区は主に、花崗片麻岩によって形成された丘陵地で、海抜の一番高い太武山は高さ252メートル、それ以外の古寧頭区、古崗区、馬山区、烈嶼区は一部分の丘陵地を除いて、大部分が赤土で覆われた台地です。各地海岸地帯では、花崗片麻岩が海水に侵食されることによって出来た断崖、平らな台地、砂浜が連なり、岩肌、砂地が交錯して変化に富んだ美しい海岸線の景観を形成しています。

金門の河川は地形の影響で、短くて細く、水量も少ないという特徴があります。金門本島には川が七本（東半分に金沙、後水、山外、前埔の四本、西半分に、小径、西堡、浯江の三本）、烈嶼には西路、南塘の二本が流れています。域内河川の多くは、太武山に源を発しています。

欧厝の沿海近接地区
金門島西南部に位置する欧厝の沿海近接地区は、
地勢がほとんど水平のなだらかなところです。

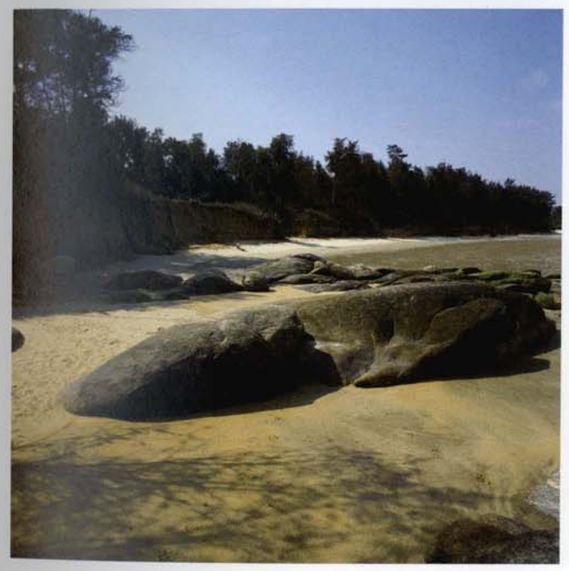
太武山
太武山は、金門地区で海抜がもっとも高く、
面積がもっとも広い丘陵地です。
見た目では石ばかりだが、形が兜に似ているようで、
太武と名付けられました（名洪受滄海紀遺）



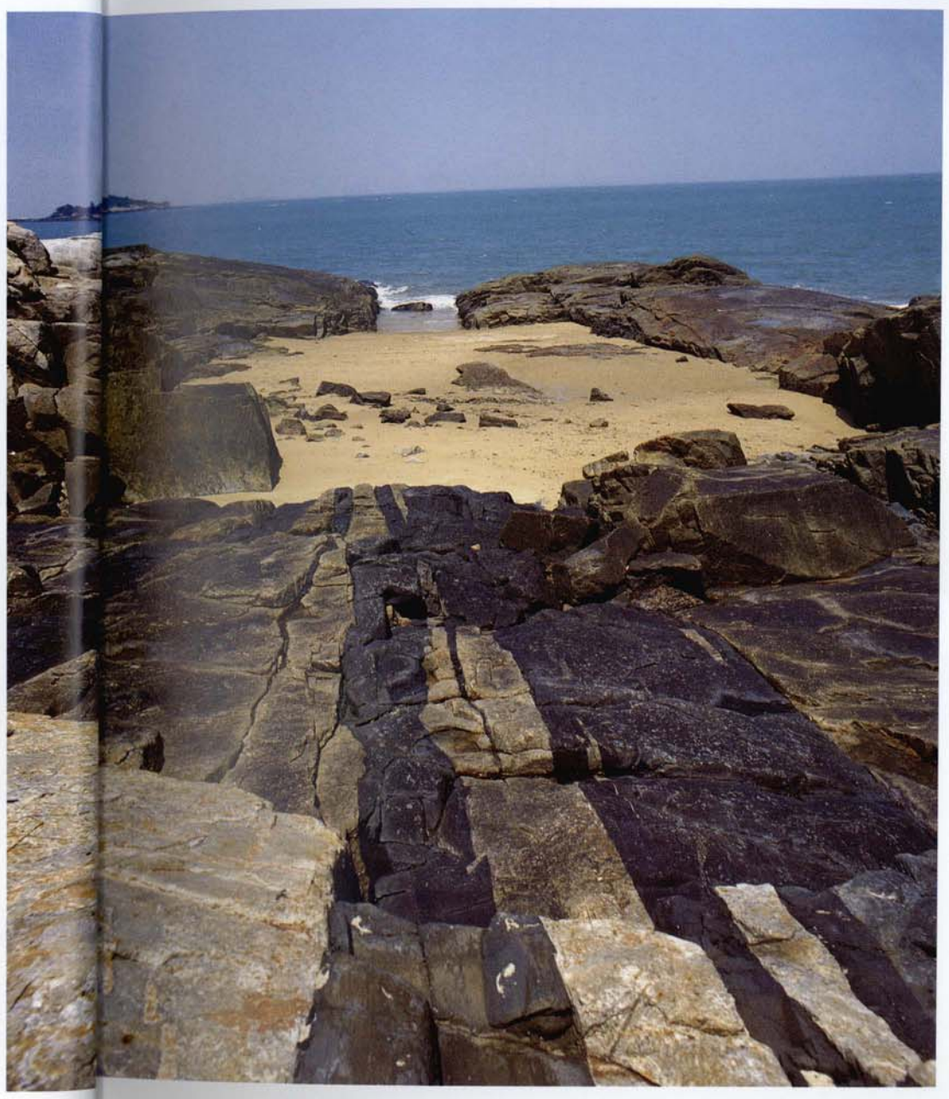
金門地質断面略図（参考陳培源，1984）

金門地質断面略図
金門島の地質は単純で、
瓊林から尚義まで線を引いて金門島を東、西に二分した場合、
東半分では、花崗片麻岩が大量に露出しているのに対し、
西半分では、赤い土の層が主体です。

第四紀沈積物　花崗片麻岩　海平面



金門島と烈嶼島の海岸線景観
岩石が地表に露出している部分地区を除いて
金門地区には広大な潮汐の浅瀬や発育の良好な砂浜、
赤い土の地層が侵食されてできた地質景観や崖面があり、
地質地形の研究や教学のよい材料とされています。



花崗岩の海岸

金門島の海岸線は谷川のように、
曲がりくねっています。
そして、東海岸、南西の海岸、
および烈嶼の東北から東南までの地区では、
波浪の侵食によってできた
崖面と平らな台地が、
地質構造と風化の断面を露呈しています。
また、花崗片麻岩が岩脈に侵入された光景、
侵入した岩脈、偉晶花崗岩、石英岩、煌斑岩などは
素晴らしい戸外教学の場でもあるのです。

浯水渓（左上）

浯江渓ともいいます。
全長約7.5キロメートルで、
金門地区でもっとも長い川です。
菽穭山の西、上後垵の西南、
双乳山付近に源を発し、
夏墅港より海に入ります。
河口の浅瀬には
メヒルギー、マングローブが茂り、
水鳥の群れの大事な生息地でもあるのです。

金沙渓（左下）

金沙渓は金門のその他の河川と同じく、
地形の影響から、短くて細い上、
水量も少ないという特徴があります。
北太武山西南麓に源を発し、
上流は勾配が急で、流れは速く、
雨後の大水も一瀉千里の勢いで、
余すところなく、流れてしまいます。
そして、乾季ともなれば、
流れが止まることもあるのです。
一方、下流は川幅が比較的広く、
沙尾一帯から、流れは穏やかになって、
蜿蜒と西に向かい、
金沙港を経て、海に入ります。

慈湖（右上）

慈湖はもともと入り江でしたが、
1969年、軍が堤防を作って湖の景観にしました。
眺めがよく、景色の美しいところで、
湖畔の樹林や砂洲などは冬鳥類の生息地、
豊富な鳥類の資源はここを
絶妙なバードウオッチングの場にしました。
慈堤から南西海域を眺めますと、
烈嶼島や中国大陸の山河を
見ることができます。

太湖（右下）

太湖は金門最大の人工淡水湖で、
太武山東北部の洪水を収納することができます。
これによって、金門東半島の飲み水や灌漑の問題が
解決できたばかりでなく、
鳥類にも良好な生息地と餌を求める場を
提供することができ、
環境生態に大きな貢献ができました。

植物の生態系と景観

歴史上の記載によると、金門はもともと樹木の生い茂った島であったのですが、元、明、清の歴代を通じての製塩、造船、乱伐、風害、砂害などで、山はついに禿山と化しました。1949年以降、島駐屯の軍隊と民衆が力を合わせて積極的に造林に尽力してきましたので、今では並木が生い茂り、道行く人々の心を和ませます。植えられた木は、モクマオウがもっとも多く、つぎに相思樹（ソウシジュ）、松、ユウカリなどがあります。

木麻黄（モクマオウ）

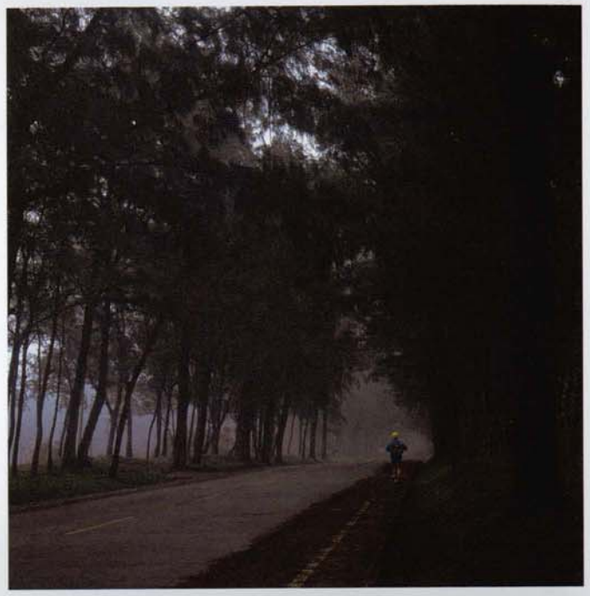
Casuarina eqisetifolia Forst

一般に木麻黄の葉っぱとして見られているのは、
実は緑色をした細い枝で、葉は細歯状の構造に退化して、
茎の節についています。
木麻黄は優良な海岸造林用樹種で、悪条件の環境での忍耐性は抜群です。

ユーカリ

Eucalyptus Citriodora Hook

ユーカリは生長の速い樹種で、
姿がまっすぐであるので、
密集して植林することができます。
根っこが排他性であるため、
他種の植物は容易に
成長することができません。
葉はレモンの香りがします。



木麻黄の並木道

マツヨイバナとチガヤ

Oenothera drummondlii Hook. and *Imperata cylindrica* (Linn.) P.Beauv. Var. Major (Neexs) C.E. Hubbard ex Hubb. & Vaughan

マツヨイバナは多年生草本植物に属し、耐乾性の非常に強い植物です。
花の色は鮮やかな黄色で美しく、金門地区の砂質海岸や
内陸の日当たりのいい砂質の地区に馴化して、大きな特色となっています。
一方、チガヤはよく見られる民俗植物で、
根茎は子供がハシカにかかった時に熱さましとして使われます。
やせ地でも成長するので、マツヨイバナとともに
沿海地区の優勢植物群とされています。

沼沢湿地（上）

金門では、天然の沼沢はもう数少なく、
大部分が人工の湖やため池です。
その植物群はユニークで、
たで、田ねぎ、布袋はす、睡蓮、あし、
水燭など多様で、水鳥によき生息地を
提供しています。

聚藻（左）

Myriophyllum spicatum L.

水に漂う水生植物で、
浅い池や川の中に生えます。
実が熟する夏になると、
池辺では「ポポ....」と種がはじけて
飛び散る音が風情を添えます。

水燭（中）

Typha angustifolia L.

多年生湿生草本植物で
沼、池、湖、川などのほとりや、
水田、湿地に生えます。

田ねぎ（右）

Philydrum lanuginosum Banks & Sol. ex Gaerth

多年生湿生草本植物で、
広西、広東、福建、台湾や
アジア南部、オーストラリアなどに、
広く分布しており、
池、水田、湿地に生えます。

金門国立公園の植物は、合わせて542種類あります。自生植物は禾本科、菊科、蝶形科等の九種類がもっとも多く、潺槁樹、ヤマナシ、マツヨイバナなどは、台湾本島にはない植物です。また、池辺や沼沢近くの湿地ではたで、布袋はす、水燭が多く見られます。総じて、金門の植物種類は地縁的な原因から、中国大陸と密接な関係がにあるといえます。

また、公園内の湿地は鳥類に良好な生息地と餌を求める場を提供しています。それゆえ、豊かな景観ばかりでなく、周囲の丘陵地や森林とともに、すばらしいバードウオッチングの場でもあるのです。

雲の実

Caesalpinia sepiaria Roxb.

薬王子、牛王刺ともいいます。
さかとげが密生した攀縁灌木で、
中国大陸は、揚子江以南に多く分布し、
台湾はごくわずかです。
金門でも、わずかに太武山区に見られるだけで、
保育類植物として取り扱われています。

テンニンカ

Rhodomyrtus tomentosa (Ait.) Hassk

金門の原生植物で、
艶麗な花を咲かせ、観賞性の高い植物です。
また、果実は甘美で、生食でき、
全株薬用として利用できます。
金門では普遍的に分布していますが、
太武山が特に多いとされ、
保育類植物となっています。

潺槁樹

Litsea glutinosa (Lour.) C. B. Rob

くす科常緑灌木または、小喬木に属し
金門現存の自生樹種の中で、
蓄積量のもっとも大きいものです。
また、環境適応性が強く、
病気や乾燥に対する耐性も強いので、
海岸造林の理想的樹種とされています。

魯花樹

Scolopia oldhamii Hance

常緑小喬木に属し、
全株、特に若枝に鋭いとげが生えています。
これはその成長環境がいかに乾燥して
いるかを物語っています。
金門の砂質土地区や赤粘土地区に
多い植物です。

田代氏石斑木

Rhaphiolepis indica Lindl Var.
tashiroi Hay. ex Matsum & Hay

白またはピンクの花が咲く姿の優美な木で、
庭の緑化美化に使われます。
比較的干渉の少ない
赤粘土の土壌地区の灌木の茂みに、
散らばって生えています。

動物の生態系と景観

金門は面積が小さい上に、長期的に開発されて来たため、大型の野生動物資源は比較的少ない方ですが、位置が大陸の周縁部にあって、渡り鳥移動の中継地であるので、鳥は多種多様で蝶の種類も豊富です。哺乳動物の中で、比較的特殊なのはカワウソで、よく夜間に、国立公園や近くの水域地帯に出沒します。沿海生物の中で特別なのはカブトガニです。

蝶類は45種あって、アゲハチョウ、ヒョウモンチョウなどが主ですが、黄色い縁のアゲハチョウや紫斑蝶は金門特有の蝶類です。

カワウソ（左上）

Eurasian otter

金門国立公園の貴重な陸生哺乳動物です。
夜行性なので、それを
目にすることは容易ではないのですが、
その活動の痕跡、足跡、
または、排泄物などは、
安定した水辺で見ることができます。
観察によりますと、
小さい爪のカワウソも公園内にいるようですが、
数はもっと少なく、
いまだに目撃の記録はありません。

アマガサヘビ（左中）

Many-banded Krait

金門に現存する唯一の毒蛇で、
保育類生物とされています。
毒性が強く、神経性の毒なので、
かまれて数時間で、死に至るほどですが、
温和なたちなので、
やたらに人を攻撃しません。
夜行性で、湿ったところに出沒し、
雨の降る夜は特に活動的です。

蓬莱草トカゲ（左下）

Takydromus stejnegeri

日中行動型で、草地、空き地や灌木の茂みで、
活動したり、餌をさがしたりするのを
好みます。
恥ずかしがりやで、動作はすばしこく、
台湾特有の種に属します。
貴重な希有保育類生物とされ、
緑化用林木とともに運ばれて来たものと
推測されています。

黒色眼窩のヒキガエル（右上）

Bufo melanostictus

俗称ガマで、体型は大きく、動作はのろいが、
体の色はいろいろと変化します。
金門ではよく見られる種で、
田んぼの傍、花園、土穴、岩穴に生息し、
夜に餌を求めます。
首から背中にかけて黒い隆起稜があり、
眼窩の周りが膨らんでいるのが
特長です。

湿地の生態（右下）

金門は四面を海に囲まれ、
海岸線がとても長いところです。
岩岸地区では、岩溝、洞穴内のくぼみなどに
潮の満ち干で海水がたまってできた潮池に、
藤壺、亀爪、イソギンチャク、牡蠣など、
固着性無脊椎動物が異なる藻類とともに
生存して小型の完全な潮池生態を形成し、
種類も数量も特徴的です。

黄色い縁のアゲハチョウ

Chilasa clytia Linnaeus

金門のもっとも代表的な胡蝶で、
中国大陸沿海地区や香港には分布していますが、
台湾にはありません。
成虫の発生期は4－10月で、
幼虫の食する植物も金門特産の潺槁樹です。
早期の幼虫は、黒と白の縞模様で、
成熟すると鮮やかな色になります。

玉帯アゲハチョウ

Papilio polytes pasikrates

中大型の玉帯アゲハチョウは、
成虫の発生期が3－5月で、
飛行速度が速く、金門地区に出現する数の
もっとも多い蝶です。
オス（右上）は後翅外横線に帯状の白い斑紋があり、
尾状の突起があるのが特徴です。
メス（右下）は亜外縁に赤い三日月の紋が列を成し、
斑紋は個体によって大きな差別があります。

鳥類は金門国立公園のもっとも豊富で特色のある野生動物資源で、すでに発見されて記録のある鳥類は約280余種、密度の大なることは全国の最たるものといえます。その中で渡り鳥が最も多く、約86％を占めています。毎年秋から翌年の春末にかけて、大挙して金門へ飛んで来る渡り鳥は、種類が豊富多彩で、数もおびただしく、域内の慈湖、金沙ダム、陵水湖では、雁鴨やカワウやかもめ科シギ科の水鳥が群集して生息しているのを目にすることができます。

金門地区の鳥類と台湾地区鳥類との間には大きな違いがあります。例えば、駒鳥、カワセミ、ハチクイ鳥などの7種は、台湾ではまだ発見されたという記録がありません。一方、ヤツガシラ、玉首カラス、カササギ、アオショウビン、ナベコウなどは、台湾では珍しい鳥ですが、金門ではよく見られます。

鳥類の移動は、重要な環境指標です。そして、鳥類、蝶類、カワウソ、カブトカニを問わず、みなわれわれが誇りとする自然界の宝蔵です。われわれは力を合わせてこの豊富な特殊的な生物のよって生息する生態環境を守らなければなりません。これらの生物は、人類の保護を得て、はじめて生存し続けていくことができるのです。今保有しているものを大事にして、われわれの子々孫々にもこの自然資産を享有させたいものです。

ヤツガシラ

Hoopoe

俗称「墓穴鳥」、それはヤツガシラが、
岩の隙間に巣を作り、草地の上で餌を探し、
墓場で出没しているような印象を与えるからです。
ヤツガシラは旧大陸の三代洲に分布していて、
エジプトの三千年前の壁画には
すでにその姿が色彩で描かれています。
警戒心を顕わにする時、
ヤツガシラは頭にある美しい冠毛を広げ、
急ぎもせずゆっくりもせずに
昂然と胸を張って前進しますが
それはカッコウいいものです。

カワウ（左上）

Common Cormorant

金門のサンタクロースです。
赤い服も着ず、白いひげも生やしてないのですが、
毎年のように、10月になると、大挙して
金門へ避寒にやってくるカワウは、
別荘を真っ白のクリスマスツリーにしてしまいます。
使う材料は何かというと、
それは金で買ってくるものではなく、
カワウがおなかに力を入れさえすれば、
できるものです。
もうお分かりでしょうか？

ヒメヤマセミ（左中）

Lesser Pied Kingfisher

海辺に近い池の上空では、
常に空中に停止しているヘリコプターを
見ることができます。
それはヒメヤマセミで、獲物を見つけるや
垂直に急降下して水中に突入し、
また空に舞い上がってくるのですが、
収穫はこの難しい動作に見合っていないようです。
少なくとも、カメラがとらえたこの御仁のように
すごいご馳走にありつく幸運は、
そんなによくあることじゃないようです。

ハチクイ鳥（左下）

Blue-tailed bee Eater

金門は毎年3月下旬から
ハチクイ鳥の甲高い鳴き声と鮮やかな色彩の体が
空に現れるようになります。
ハチクイ鳥は金門の夏の渡り鳥の主役です。
下に曲がった長いくちばしで、
土手に穴を掘って巣を作り、
昆虫と蝶を餌に、せっせと子育てに励み、
幼鳥に飛ぶことと餌を獲得する技術を教え、
10月に群れを成して
金門を離れ、南洋へ飛び立ちます。

オ㆓アジサシ（上）

Caspian Tern

アジサシは大概春と夏の変わり目に
金門に飛来して、足休めのしばしの滞在をしたり、
または、子育てに暑い夏を金門で過ごすだけですが、
オニアジサシは
冬の間ずっと金門国立公園の水域で、
カワウやダイジャクシギ、
ユリカモメの群れに混ざって過ごします。

シギと磯シギ
Snipes and sandpipers

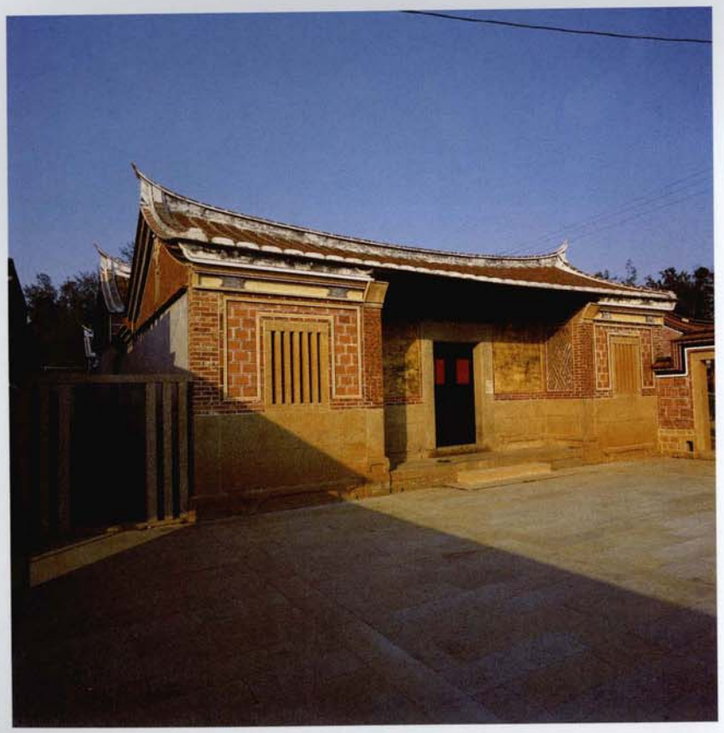
シギ類の中でも、浜シギ、環チドリ、キョウジョシギなどは数千という数でともに餌を探したり、移動したり、休んだりします。一体どのような訓練を経て、こんな秩序ある団体行動をとることができ、飛行中もお互いに衝突することがないのでしょうか？

人文史跡

東晋時代、中原から災害や戦禍を逃れて金門にたどりついた人々が住みついて、農耕に従事するようになってから、千六百余年がたちます。このように開発が早かったので、金門は、歴史的流れが長く、豊かな文化を育んで来ることができました。住民は福建の泉州、漳州の二州からの移民が多く、建築や風土民情は福建、アモイの伝統を受け継いでいます。そして、四十年にわたる軍事的管制で、都市化のテンポが遅かったため、豊な人文史跡を保存することができたのです。

金門国立公園の豊な人文史跡は、歴史的古跡や伝統的集落の建築物によく表れています。

金門地区の古跡は合計三十三箇所あり、その内の十一箇所が、金門国立公園内にあります。瓊林蔡氏祠堂、水頭黄氏酉堂、文台寶塔、虚江嘯臥碣群などの四箇所は二級古蹟、漢影雲根碣、振威第、水尾塔、邱良功墓園、瓊林一門三節坊、蔡攀龍墓、海印寺石門關などの七箇所は三級古跡に列せられています。

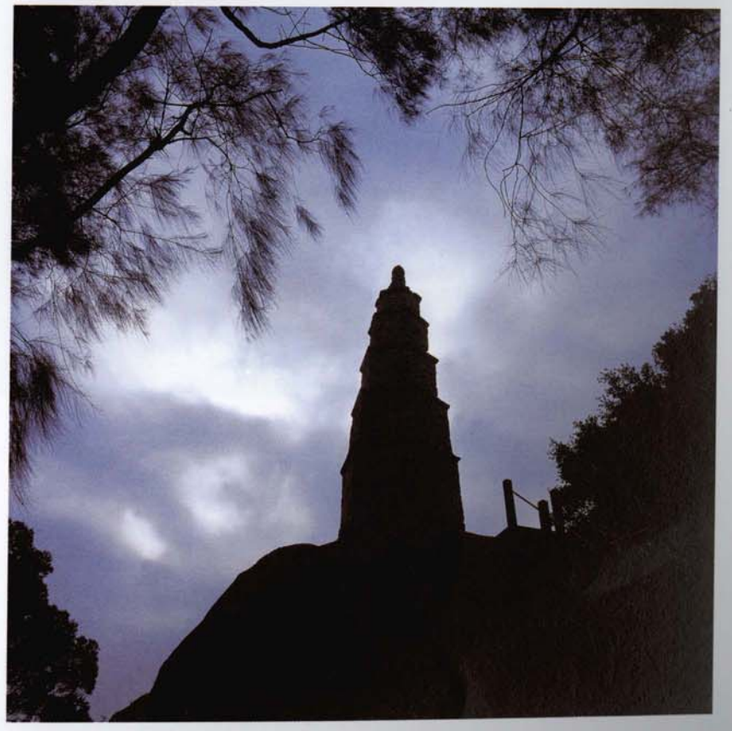


振威第

清朝時代、古寧頭は武将を輩出しました。
古寧頭北山東界にある「振威第」は、
嘉慶年間、広東水師提督に任じられた李光顒の故居で、
「提督衙」と呼ばれています。
李光顒歿後、振威将軍という称号を
朝廷より贈られたので「振威第」とも
呼ばれるようになりました。
今では、すでに修復されて、文物展示館となっています。

古寧頭水尾塔

古寧頭水尾塔は双鯉湖畔に位置し、
清朝は乾隆32年（1767年）に建立されてから、
すでに300年以上経っています。
正方形の土台の上に石のブロックや細長い石材を
積み上げて作った塔の頂上には
ヒョウタンが安置され、
四角い塔の最上層には、「仏、法、僧、宝」の四文字が
それぞれの面に刻まれています。
仏教三宝を象徴する「仏、法、僧」の三文字が
村の外側に面しているのは
これによって海から来る邪悪な風や悪霊を
鎮圧して村の安泰を図り、
「宝」という字を内側に向けることによって
財宝を村に招き寄せようとするからです。



文台古塔

文台古塔は金門城南盤山東南に位置し、
明の洪武20年（1387年）に建立されてから
すでに600年以上経っています。
細長い花崗岩の石材を積み上げて作った五層建ての
内部が空洞でない塔です。
最上部は矛先のように尖っていて、
直ぐ下の軒には、「奎星聳照」の四文字と
「魁星踢斗」の画像が浮き彫りになっています。
この塔は昔航海の標識、
今は疎林の中にたたずむのみといえども、
天を支えんとする気概は昔のままです。

黄氏酉堂

酉堂とは学校のことで、
黄氏酉堂は水頭の富裕な商人黄俊が、
清の乾隆年間に建てたもので、200年余りの歴史があります。
前に曲がり橋、日型、月型に隔てられた二つの池、
金門地区唯一の庭園池のある建築です。
今はすでに修復されて国の二級古跡に列せられています。

邱良功墓園

清嘉慶24年（1819年）に建立され、
金門地区で、今もなお完全な形で存在している清朝時代の墓で、敷地は広く、規模も壮大です。
邱良功は金門後浦の人で、乾隆32年（1768年）に生まれました。
海賊平定の手柄で、浙江水師提督に任じられた人で、歿後、朝廷から建威将軍という封号を授けられました。享年49才。
邱良功墓園は典型的な正一品武将の墓園で、北を背の南向きに建てられ、墓前には石翁仲、石馬、石虎、石羊が各一対ずつ、
その前方には時の皇帝仁宗から授けられた神道碑が左右に一本ずつ、
墓の真ん前には四本柱、幅6メートルのアーチが立てられています。
また、彫刻や絵画もすばらしく、国から三級古跡に指定されています。

伝統的建築文化は、金門国立公園のもっとも豊かな文化資産です。欧厝、珠山、水頭、瓊林、山后、南山、北山など、七つの代表的な集落は大部分が、漳、泉様式を維持した伝統的な南福建式建築で、煉瓦、石材などの資材の運用から建築の装飾的表現、または、平面上のアレンジに至るまで、すべて変化に富んだ金門独特の地方色と芸術的生命力を具現しています。

これらの伝統的建築は、煉瓦や石材を建材として比較的広く運用し、木材はそれに次いでよく使われます。石材は主に泉州白で、木材は福州の杉が多く、金門産の花崗岩は泉州白に比べて素地が荒く黄色っぽいので、泉州白の価格ががより高価にもかかわらず広く使われました。煉瓦や石は壁面に変化をもたらすことを可能ならしめ、縦に横に自在に積み築きあげることができますので、ひさごや‘喜’の字を二つ並べた祝い文字をかたどった美しい図案を組み込むことができ、一大特色と見なされています。

また、建築装飾技術としては、煉瓦彫り、土偶、木彫り、陶芸、彩色画などと、いろいろありますが、屋根の棟下と切り妻壁間の山型の部分が装飾のポイントで、造形も図案も多種多様です。もう一つ特殊な装飾的手法は、厄除けの物品を飾ることです。例えば屋根上に飾った大きな炉や門の上の八卦図、悪霊除けの護符、アップサイドダウンミラー、特殊なプラント、T字路突き当りに置かれた石彫り、村内安全を守る「風獅爺」などいろいろあり、金門建築のもう一つの特色となっています。全体的に見て、金門の南福建式の建築には高度の芸術があり、一種の古典的な静かで安らかな美を十分に表現しているといえます。

珠山

珠山集落は金門島の西南端に位置し、
北に亀山、西に珠山を
擁して建設されています。
元の至正年間、薛氏の祖先貞固公が、
難を逃れて海を渡り、
この地を発見して定住、
子孫をふやして宗族となりました。

その他に、俗に「番仔楼」と呼ばれる洋式建築がありますが、その中でも、中国的なものと西洋的なものをともに兼ね備えた洋館は、もっとも特色があるといえましょう。このように清朝の末期から民国の初期にかけて、華僑が外国から導入してきた西洋式建築が、伝統的建築と融合して、さらに変化に富んだ建築様式を造り出しているのです。

伝統的な古い家屋（右上）

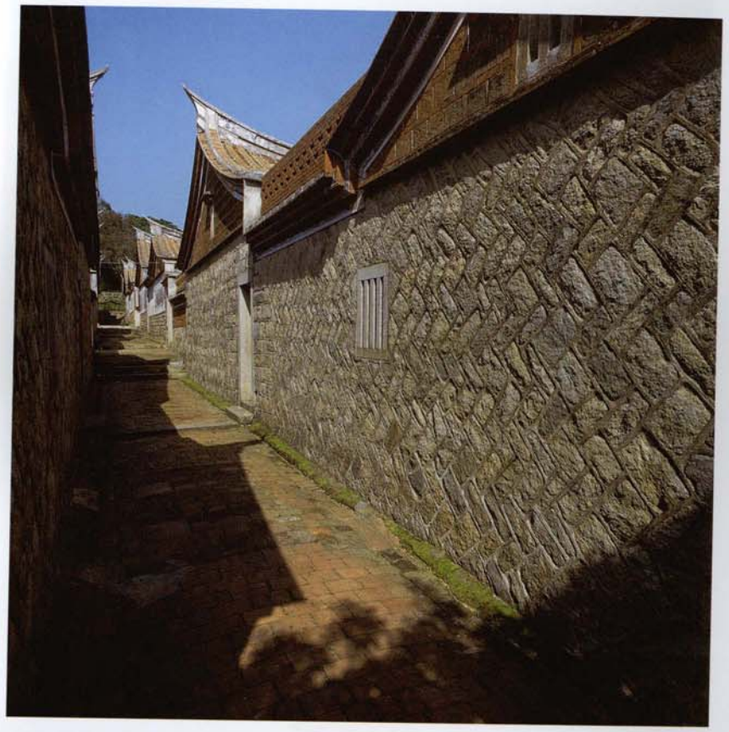
金門の古い家の壁は
大体赤レンガや花崗岩を建材に
しています。
巧みな設計と技で、堅固に建てられ
一つの地方的背景環境と
人文的特色を伝えています。

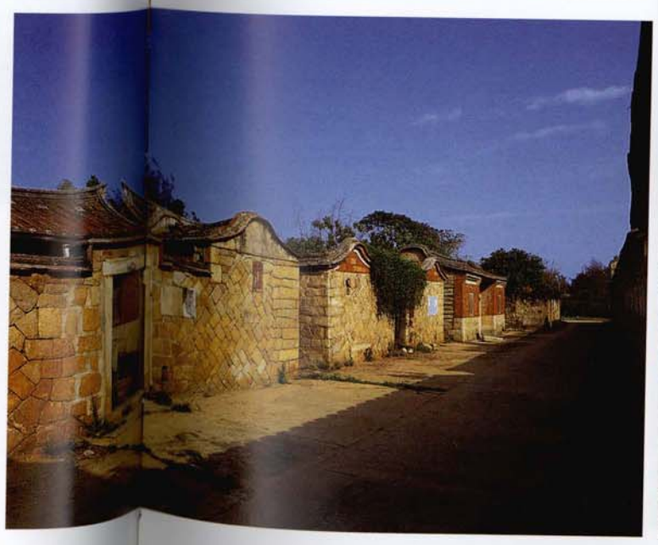
欧厝（下）

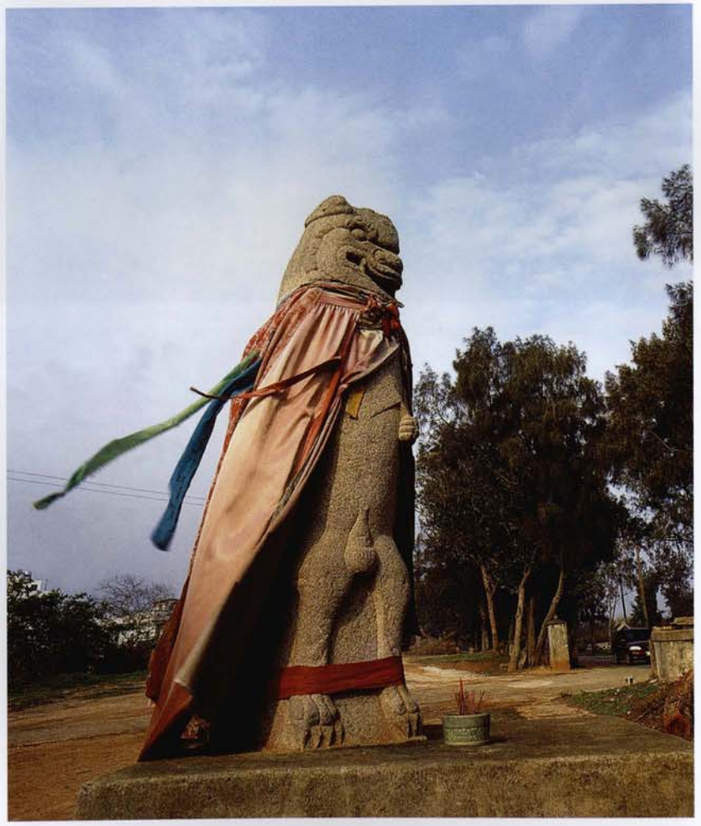
欧厝下社地区の建築は
櫛式の配置になっていて、
整然とした広い前庭空間を形成しています。
金門の伝統的建築配置方式の一つです。

山后民俗文化村（右下）

清の光緒26年（1900年）に建てられたもので、
居住用十六棟、学習塾、祖廟各一棟、
全部で十八棟あり、
南福建の建築様式を採用しています。
山に依って海に面し、
整然としたたたずまいを見せています







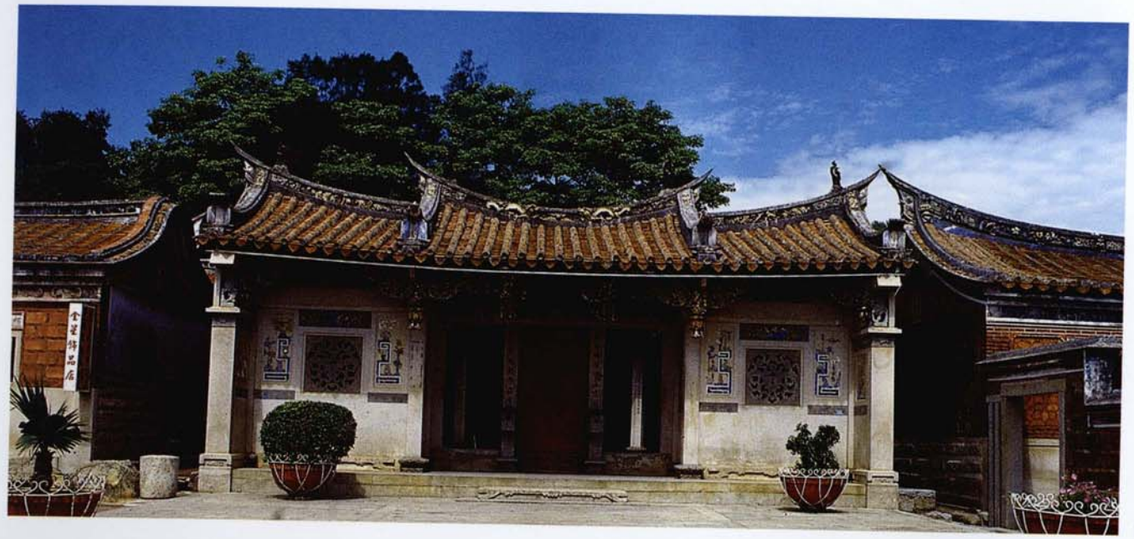
風獅爺

歴史上の記載によりますと、金門は
もともと鬱蒼と樹木の生い茂った島でしたが、
千年来の開墾の過程で、
農作物が徐々に本来の植物分布に取って代わりました。
さらに、300年余りの度重なる戦乱や乱伐で、
植物の覆いを失ってしまい、
冬の強い季節風に吹かれて、表土は流失し、
砂丘が発達して来た結果、
人々は風砂の災害に苦しむようになりました。
風獅爺は風を鎮めるために設立されたもので、
造型はいろいろあり、立てる場所も、
村の入り口、家の壁などさまざまで、
当時の社会風習や民間信仰を十分に反映しています。

古い建築の彫刻絵画の美

伝統的南福建式の建築風貌は金門地区の重要人文的特色です。
古い建築は空間理念の計画においても、
全体的造型の設計や細部の装飾においても、
深い歴史的文化的意義があります。
屋根の棟下と切り妻壁間の山型の部分が、
外部装飾のポイントで、
正殿の木彫りの装飾には
キリン、獅子、象.....などの吉兆動物が使われ、
壁には色彩豊かな花鳥などの各種造型の浮き彫り、
すべて中国伝統的観念に由来し、
平安、吉祥、富貴、を象徴しています。

水頭村の得月楼　水頭村は金門島の西南部、近くに港のある交通の便のいい位置にあります。そのため、南洋へ商いに行く村民が多く、得月楼はそうして財を成した村民が建てた洋館で、海賊から村を守るために、銃器をしつらえた銃楼まであります。今では、壁も剥げ落ち、古さが目立ちますが、かすかながら昔の風情をしのぶことができます。



祖廟は金門のもうひとつの特殊な建築文化です。金門の集落は単一の苗字の親族によって形成されていることが多く、このような村落では、その苗字の祖廟を建てて祖先を祭っており、祖廟を中心とした同姓の宗族集落社会を形成しています。例をあげてみれば、珠山の薛氏、水頭の黄氏などですが、子孫が増えて宗族が大きくなりますと、村全体で建てた祖廟の他に、各家族の祖廟ができます。例えば瓊林の蔡氏では大小七つの祖廟があるのです。

祖廟は伝統的集落発展の過程で、ルーツを遡るという重要な役割を担い、全宗族の感情をつなぎとめて来ました。また、祭祀という活動を通じて子孫の発展を祈るので、祖廟は村民の精神的センターといえる存在でした。

祖廟は集落の中心に位置することが多く、建物は南福建の伝統的様式で、規模は一般的民屋より広大で高く、屋根の棟には上り竜の焼き物が安置されています。これは祖廟特有の装飾で「竜隠」といいます。

祖廟建築はもう一つの建築の美です。それぞれの祖廟はそれぞれの宗族歴史発展の縮図です。その内包する文化的社会的意義は深遠で、探求に値するものでしょう。

金門国立公園内には、いまだに、古礼に則って行う数々の民間行事が、残っています。例えば、幸福を祈願する行事、神仏の誕生日を祝う祭典、祖廟、住居の落成、旧宅の補修完成を祝う儀式および平日の伝統的習俗や生活上のタブーなどがあります。

総じて、空間景観の表現、または、日常的民俗や風俗を問わず、金門国立公園には、深厚な文化的内包があります。これらの特色は金門地区で暮らす人々の共有する貴重な文化資産でもあるのです。

山后の王氏祖廟

祖廟は各宗族が共同で祖先を祭る殿堂で、
中国の同族支配体系社会の
祖先を敬う慣わしを伝承しています。
人文歴史の進化、集落地理、
または、建築環境の観点からでも
祖廟はユニークな位置を占めていて、
文化根源の研究には重要な存在です。

城隍爺（神名）祭

金門地区では毎年陰暦4月12日が城隍爺祭の日です。
この日、城隍爺は神輿で町を練り歩き、
敬虔な信者はどらや太鼓を響かせ
群集して盛大にパレードします。

戦役関連の史跡

1949年中国大陸を制した後、中共は金門諸島を占領して台湾に軍隊を進めようとして、同年の10月25日未明に古寧頭一帯に上陸しましたが、わが軍はこれを迎え撃ち、二日間の奮戦を経て撃退しました。これが「古寧頭の戦い」ですが、中共は1958年8月23日に再び金門に対して激しい砲撃を発動、四十四日間に百万発近い砲丸が金門に落ちました。これが「八二三砲戦」です。この後、大規模な戦いは起こらなかったものの、奇数の日に砲撃、偶数の日は停戦という方式のかく乱砲撃は、1979年アメリカとの外交関係が切れる日まで続きました。

台湾、澎湖安全保障の最前線として、長期的な軍事上の必要性から、金門の防衛施設はすべて極めて堅固に出来ています。また、度重なる戦いはこの島に、拭い去ることのできない歴史の痕跡を残しました。これらと戦役関連の史跡、作戦のための工事など、すべて金門国立公園内にあります。

古寧頭区は、古寧頭戦役の主戦場で、戦火の爪あとがもっとも生生しいところです。壊れた家屋の残壁や不完全な垣根、弾丸跡の著しい北山洋館、民衆の献金で建てられた李光前将軍廟などはこの地区の特色です。

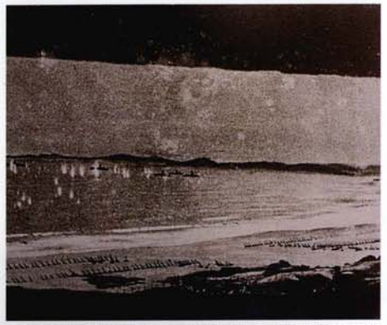
太武山区には有名な防衛施設や戦役関連の記念館があります。たとえば、太武山を貫く中央坑道（トンネル）、瓊林の地下戦闘村、八二三戦史館、戦死者を記念する軍人公共墓地などがあります。

馬山区には名高い心理作戦の放送センター馬山放送ステーションがあります。ここから対岸までわずかに2300メートル、大陸の状況をはっきり眺望することができます。

古崗区にある翟山小型船舶用坑道は、1966年に作られたもので、小型船舶はそこで回転したり、停泊することができ、作戦上の必要性から開削されました。

烈嶼にも、紅山、貴山、双口などの戦闘村や、湖井頭戦史館があります。

戦争は遠い日のこととなりつつありますが、戦火と硝煙が残した史跡は、今でもそこで、血涙で織り成した時代悲劇について無言の訴えを続けています。



「八二三砲戦」の折、わが軍は中共の砲火による封鎖を突破して、補給の任務を遂行しました。

馬山観測ステーションから、大陸の状況をはっきり眺望することができます。

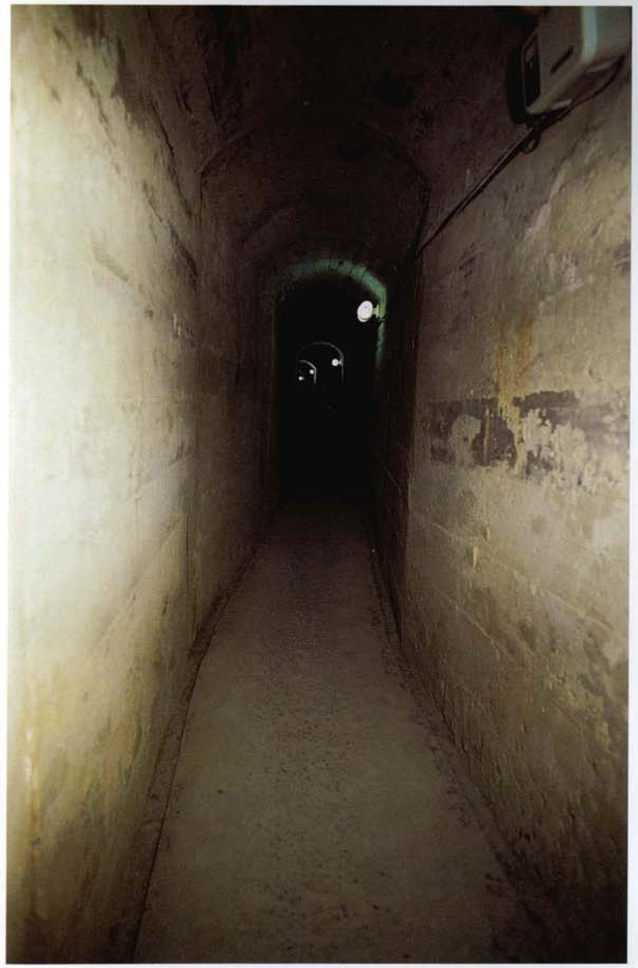
地下に隠れる機動打撃部隊

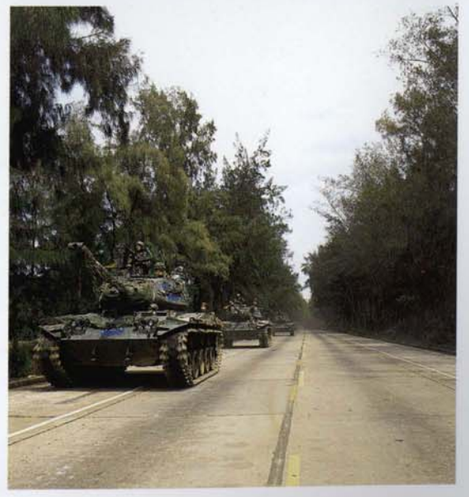
翟山小型船舶用坑道（右上）
60年代に、作戦上の必要性から開削されました。
上陸艇はそこで回転したり、停泊することができ、
随時上陸部隊を乗せて出動することができました。

瓊林の地下戦闘村（左下）
瓊林は金門島中央の幅の狭いところに位置し、
金門安全保障の重要な戦略的位置を占めています。
60年代には、地下に四方八方に通じる坑道を掘り、
指揮センターも設けて防御能力をさらに高めました。

対空挺部隊用のくい（右中）
敵の空挺部隊による進入を防ぐために、広々とした平坦な
野原などにくいを立てました。

軍事演習（右下）
軍事演習は金門駐留部隊の重要な訓練課題で、
あらかじめ状況を設定した上で作戦計画をたて
演習を実施します。





北山の古洋館

1949年の古寧頭戦役の際、
中国共産党軍は、闇夜に乗じて上陸し、南山、北山一帯で、
わが軍と熾烈な市街戦を繰り広げました。
この洋館は北山村の北側にありましたので、
真っ先に攻撃を受け、一時は共産党軍の
指揮所にもなったほどですが、
最後にはわが軍によって取り戻されました。
残壁弾痕は戦況の激しさを物語るとともに、
歴史の生き証人でもあるのです。

烈嶼の環状車道

烈嶼をぐるりと一周した戦備車道ですが、
沿路の風景も見ものです。

八二三戦史館

太湖中正公園側にあり 、
「八二三砲戦」関連の史料を展示しています。

どれだけの時間が流れ去ったのでしょうか？
風が吹き、草がそよいでいることが
忘れられている・・・・・・
どれだけ遠く離れてしまったでしょうか？
ヤツガシラが空を飛び、カワウソが走ることが
ないがしろにされている・・・・・
できることなら、
あの一抹の、少しも俗塵に染まらない、
凝縮した碧のみずみずしさを
摘み取って来てあげたい。
そうすれば、
金門の水、山々、蜂、鳥、花に浸かる喜びで、
如何に、如何に胸が高鳴り、心が清められるかが、
分かってもらえるでしょう。

發行人／許文龍
企画／林義野
総編集／呂志廣
審査／黃子娟
編集／陳淑靈
翻訳／黃季媛
設計／安世中
美術設計／方愛弟
攝影／安世中　呂勝由　周民雄　徐仁修　黃子娟　陳永福　葉文琪
裏表紙画／陳一銘
出版者／内政部營建署金門国立公園管理処
892 金門縣金寧鄉伯玉路二段460號
TEL／(082)313100
FAX／(082)313134
Website／www.kmnp.gov.tw
e-mail／kmnp@mail.gov.tw
初版／2003年10月
印刷／舜程印刷有限公司　(04)23214125
発行部數／1000本
定価／125元
ISBN／957-01-4847-0
GPN／1009202847

寫真索引

安世中／4 5 10(上) 11(右上、左下、右下) 12 13 14 15(右下) 16 17 18 21(下) 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45
呂勝由／19(中、右) 20 21
周民雄／10(下) 11(左上) 15(右上) 19(上) 22(上) 24(左上、左下) 26(下) 27 46
徐仁修／22(中、下) 24(右上、右下)
黃子娟／6 7
陳永福／25 26(上、中)、28
葉文琪／23(上)
詩／陳巾眉

ISBN 957-01-4847-0

9 799570 148472

GPN:1009202847